

ているところが本当にすごく多いんですよね。すごく一緒になっている。一緒になっていて、公社をあけると、一緒に包括もついてきてという、そういう丸ごとのところがすごくふえている中で、ちゃんと分かれているというところが調布市のいいところだと思うんです。それぞれ社協の役割、公社の役割というのが。私は一緒になっているところはその大変さ・・・土台が違うわけですから、ですから似ているようだけどそこは違う、そこがちゃんと分かれていて、ちゃんとすみ分けられることがいいなというふうに期待しています。

- 公社が拠点化していったところがすごく厚いんですよね。ああいうところで言うと、私たちは地域を掘り起こしてということで。さっきコーディネーターの話も出ていましたけれども、そういったところなんかはやっぱりエリアをモデルにして、そういうところで互いの違う観点を持ち寄りながら。地域の中ですごく困っている人がいっぱいいると思うんです。今うちがモデルにしているところはちょっと違いますけど、ああいう意味ではモデル事業だからじゃなくて、交互にお互いにすみよって、セーフティーネットというところでは同じ願いがありますよね、そういうところがどうやってできるかなというようなところと一緒に開発していく。お互いの切り口は違いますから、そんなことは一緒にやっていたりするのかなと。学び合えるというか。社協が、公社が、じゃなくて、協働でというのもありかなと思いました。
- 他の市町村の社協職員同士の連絡会が

あって、東京都の社協がそれをまとめてというふうにやっています。それも社協の強みの一つだと思っているんですけど、公社さんの場合はそれがやっぱり少ない。でも同じ調布の中の外郭団体とか切り口が違ってやっていく、ある拠点だったらモデル的にも事例を通してやるじゃないかという話が出たみたいに、調布の中の福祉サービスの非常に大切な担い手というような立場での交流みたいな。社協と公社で交流して、一年間だけ交互に行くとか。そんなことを考えてもいいのかなと思いました。

- 公社さんは包括支援センターという部署を持っておられますし、高齢者のところのそういう地域づくり、高齢者の視点からの地域づくりというのは社協と公社とやっぱり一緒になってやっていける部分なんだろうなと。じゃあどうすみ分けるかというあたりは余りきちんとなっていないんですけど、多分手をつなげてというか、やっていけるといいなというふうには思っています。
- 私たちも訪問介護事業所なんですよ、実は。ですが、もともとあって、つくってということじゃなくて、すき間の人がいるのでやらざるを得なくてやっているところなので、本当に抱えて、きちんとしたサービス、訪問介護事業所になっているかというところとそうじゃなくてやっているのかというところと点とつながってたりはするんですが。公社の場合はその中で訪問に行ったり、ちゃんと訪問介護事業所

としてかかわっていたり、包括として過去かかわっていたという経過があったりするところという、その辺がちゃんとフォーマルなんですよね。そのところと、私たちはボランティアであり、そういう切り口の中で、サロンというインフォーマルでやっているところという、なかなかドサッと入っていけないところがあるんですけども、しっかり入っているところと、それから後方支援を今後一緒にしていったり、仕組みをつくっていったりというところでは、違う役割の中で一緒にできる可能性はあるんだろうなというふうに思っています。

2) 違う切り口からの支援—生活支援コーディネーター事業「ちょこっとさん」と「ご近所支えあい隊」—

公社の事業の1つに、身の回りのちょっとした困り事を、公社に登録したボランティアの方にお手伝いしていただく生活支援コーディネーター事業「ちょこっとさん」(1回30分以内300円)というサービスがあり、利用をきっかけに早期のニーズ発見につながりインフォーマルからフォーマルケアへと専門的に展開していくケースがある。ちょっとした支えがあれば生活できる方々の自立した生活を支えるとともに、近所づきあいが希薄化している今日にあっても、「ちょこっとさん」を利用し、つながりをもつことで地域とのコミュニケーションのきっかけとなり、地域の見守り機能を果たしている活動である。また、地域住民のボランティア参加の機会となっており、全市で展開している。一方、社協では、地域は

限定されているが「ご近所支えあい隊」(無料)という地域住民が互いに支え合う形を、切り口を変えて可能にする取り組みを行っている。在宅生活を維持することができるよう支えあう目的は同じであり、お互いのやり方で市民にとっていいサービスの選択が可能になり、セーフティネットとして機能できる可能性が期待できる。地域づくりをお互いに行っていくなかで、重なり合う部分をさまざまな形で市民の「入り口」となるよう、互いに考えていく必要性が示された。

表3-14. 違う切り口からの支援の必要性

- ヘルパーさんが来るまで待てない、玄関の電球が切れちゃったからどうしよう、そういうのをやっぱり地域で守るシステムを自分のところで作りたいんだよという話があって。そういうのはできるんじゃないですかと話を進めたところで市が公社さんに「ちょこっとさん」というのをやってくれよと頼んだ。でも視点は、あくまでも公社さんのは全域対象としているし、一回300円だったかな、あと30分で終わる程度のものという制限がある。選択肢が市民のためにはあった方がいいから、こっちはこっちであっていいんじゃないのということを、その当時の自治会長さんに言って、今は「ご近所支えあい隊」という、そこは独自で無料で地域も限定して、自治会長さんだった人が中心に今のグループを組織化してやっています。その地域しかまだ広がっていないので、それはこれからもっと広がるといいなと思うんですけど

ど。だから市民のために考えるならば「うちがやる、こっちがやる」じゃなくて、やり方、少し切り口を変えれば、市民にとっては選択できるいいサービスになるんじゃないかなと思った事業もありましたね、たしか。

- 地域福祉を考えるとやっぱり公社と似るところも確かにあるというのは私たちも理解しています。できることを批判する、相手が先にやることを批判するのではなく、じゃあ相手がそういう切り口で行くならば、自分たちはどういう切り口で行くかというふうに考えることも必要なのかなと。全部が全部、ああそれはいいねと思う人ばかりじゃない。10人そろえば好きな色も違だし、食べ物も違うから。そういう考え方も必要なのかなと思ったりするんです、個人的には。だからいろんな形のものがあっていいのかなと。
- 有料ではお金が払えない人もいないですか。300円のお金が安いと思う人もいれば、300円は払えないよという人もいるから。だったらやっぱりご近所づき合いの中で、じゃあ電球変えるよ、ふすまの張りかえやるよという人がいてもいいのかなと思うので。それをボランティア・コーディネーターがコーディネートしなくても、地域の人たちでコーディネートしてやれる力はすごいなと。子供の家みたいに、ご近所支え合い隊の家と看板を出すのかなんとかというところで。
- 結局そこが切り口になることも、入り口になることもあるわけですし。そこをきっかけに、その世帯の支援なり

に入れるということにつながってきましたよね。

3) 改めてお互いの存在を認識する

今回のグループインタビューの意義として、社協職員の公社に対する認識の変化が見られた。調査開始時には「公社は何か意識して社協が何かやるということもない」「市内の中のいろいろあるサービス提供団体の一団体で、ここにこれをお願いできたらいいかとチョイスする選択団体の一つ」という見方もあげられたが、公社という存在を、他者の発言やそれぞれの捉え方が伝わり、理解が深まっていくなかで、公社と協働することでともに目指す地域づくりができるのではないかという発想へとつながった。「今までそういう発想がなかった」ということから、改めてお互いを理解し認識し合う事の必要性が示された。

表3-15. グループインタビューによる効果

- せっかく包括が9つになって、拠点の中では公社はすごく重要、他の地域に比べてもいい。一方で、社協も小地域でというような視点になっているんですけど、そのときに公社さんが全市的にやっているいろんな配食サービスだとか、いろいろ持っているのと、少し一緒に考える機会みたいな。この地域を社協と公社と一緒にあって、ちょっと何かモデル的にやりませんかねというような話を。今までそういう発想がなかったんだよね、公社と一緒にという。社協の内部ではいろんな部署で連携して、それぞれの持っているものをうまく使えないかねというのをようやくやり始めたところ

だったので。でも、考えたら公社も一緒にやってもらえれば、両方にとってもいいのかなと思いました。

- あえて一緒に何かできないかというふうな視点でとらえてはいなかったけれども、こうやってみんなの話を聞いてみると、やっぱりできるところはあるし。今回こうやって改めて私たちが公社のことを考えるいい機会をつくっていただいてありがたいなと思ったのがあるのと、半分、公社からうちはどう見られているのかと。同じようなことをやったらどう思われているのかなと。ちょっとそっちも聞きたいなと思いました。パートナーとしては安心できる場所かなと思います。

D. 考察

本研究では、公益性の高い事業を運営している社協から見た公社の活動に対する評価を行い、お互いの課題、協力できる点に着目し、今後の地域支援のあり方について考察する。

1. 公社の活動の効果

公社の活動の効果として、大きく以下の3点があげられる。

1) 介護保険制度の隙間支援

住民参加型の配食サービスやホームヘルプサービスなどの地域における日常的な関わりの中、公的な福祉サービスでは対応できない方々の支援を行っていること、そうしたインフォーマルな関わりからフォーマルサービスへとつなげていく役割を担い、住民と専門職の協働により継続的に支

援が可能となること、さらには住民同士で支え合う活動を形にしていることが示された。

2) 公社のケアマネジメント力

高齢者や障害者の方のケアマネジメントでの関わりを通して、公社は他機関と連携し、家族単位で継続的な支援を行っていることが述べられた。ひとつの世帯で複合的な問題を抱え生活が困難な状況において、利用者のみならずご家族の様子も含めて総合的な視点で相談援助し、継続的にご家族の生活を支援していることが示された。

3) ボランティアの受入れから養成まで

公社はボランティアを幅広く受け入れ、丁寧に対応していることから安心して紹介できること、ボランティアとしての誇りを持ちエネルギーにいきいきと活動されていることなど、ボランティアの受入れから養成まで、ボランティアへの対応について評価された。元気なときから公社のボランティア活動を行っていたことから、福祉サービスを利用する側となったときに拒まずに受入れられた事例や、公社のボランティアが地域に活動場所を広げ、他の事業所においても活躍されている様子が示され、公社の人材養成やモチベーションを高めるための方法として何か力を入れているのではないかと推察された。

ボランティアの「有償」「無償」についての問題として、「有償」「無償」のあり方に対する疑問や戸惑いがあげられ、その問題が現在も続いていることが述べられたが、「有償」「無償」ボランティアをうまく使い分け、活用されている様子も示され、有償

ボランティアに求めるものとして、「専門性」があげられた。社協職員から「専門性が高い」とされる公社の有償ボランティアと、無償のボランティアを組み合わせ、利用者のニーズを可能にしたケースもあり、ボランティアの活用により、個別支援からニーズが地域に広がり、市のサービスへと制度化されたことも事例を通して示された。

2. 社協からみた、お互いの課題

社協と公社の課題として、今後改善すべき点として以下の4点があげられた。

1) ボランティアの高齢化と新しい担い手を確保するための方法

社協と公社がともに抱える課題として、ボランティアの高齢化と新しい担い手の確保についての問題が示された。公社の活動を定年後、社協が受入れ先となっており高齢になってから活動へ参加されることへの対応の不安、利用者とボランティアの年齢がほぼ同じか逆転しているところがあることもあげられた。また、ボランティアの固定化により、新しいボランティアが入りにくい状況が作られていることも示された。既存のボランティアグループのあり方を見直し、新しいボランティアが参加しやすい環境づくりを整えていく必要がある。また、共働きにより若年層のボランティアが減少していることから、これらの層の人に対し、どのように活動へと巻き込んでいけるかが重要な課題であることが示唆された。若年層への働きかけとして、彼らが参加しやすい日時の設定、ボランティア活動を行うことで得られるメリット、活動の意味を伝えることも必要であろう。彼らのニーズに合

致した内容で参加のきっかけとなる機会を積極的に企画し、参加を通して社協と公社の活動の理解、興味へとつながっていくような仕掛けづくりの必要性が考えられる。

2) 市民から「見えにくい」活動を「見える」活動へ

介護保険により民間の福祉サービスが参入したことから、社協と公社の公益性の高い活動が市民からは見えにくい現状が伝えられ、公社の住民参加型福祉サービスの活動の意味についても、公社に内包されている地域包括支援センターとして拠点化されている機能においては発揮されているが、公社の本当の持っている顔が見えにくいということが示された。また、公社の所在周辺地域においては「顔が見える存在」として濃い支援が行われているが、市内全域となると見えにくいことが述べられ、市民にとって活動が「見える化」されるよう、実践の蓄積を伝えていき、市に働きかけていくことが必要である。住民参加型配食サービスにおいても、住民と専門職の協働、他機関との連携により、金額だけではない継続的な支援へとつながっていることの意味を、事例を通してなど住民に見える形で、伝えていく必要性が示唆された。

3) 地域福祉コーディネーターの育成

社協の取り組みとして、地域福祉コーディネーターを今後どのように育成し、連携していくかについての課題があげられた。地域における各関係機関との連携において、個別支援を行っている公社と地域支援を行っている社協が連携することで、新たなつながりと支え合いの形として地域づくりを

担うことが重要であるといえよう。市、社協、公社、地域の事業所等の各関係機関との連携を図る必要性が示された。

4) 優秀な人材の流出

公社の職員が定着しておらず、優秀な人材が流出しているという指摘があった。

同じ管理団体として、人材の流出を心配するとともに、地域の問題をともにわかちあった仲間が公社から離れていく寂しさを述べられた。優秀な人材の流出により、市内全体の底上げにつながっている可能性も示唆されるが、人材の流出については、個々の事情が考えられるため、今回の調査では明らかになっていない。

3. 今後の地域支援のあり方

今後の地域支援のあり方として、社協と公社が協力できる視点、違う切り口からの支援のあり方、お互いの存在を認識する必要性があげられ、これらにより、お互いが協働し、ともにめざす「地域づくり」の可能性が示された。

1) 社協と公社が協力できる視点

社協と公社の理念として「地域づくり」という視点で合致するところであり、協力できる視点で実現可能性として、以下についてあげられた。

- ①ともに学び合い、互いに協力できることを開発していく
- ②市民にとってのセーフティネット機能として協働できる関係の構築
- ③エリアをモデルに互いの違う観点を持ち寄りながら、事例を通して展開していく
(地域福祉コーディネーターの育成)
- ④高齢者の視点からの地域づくり

⑤インフォーマルな関わりからフォーマルサービスへの展開

⑥社協と公社の交流の機会をつくる(社協は他の市町村の社協職員同士の連絡会があるが公社はそれがないため、市内の福祉サービスの非常に大切な担い手という立場での交流)

上記の内容を踏まえ、連携することで地域の見守りが強化され、さらに各関係機関との協働により全市的な活動として総合的なケアマネジメント機能を果たすことが期待できる。社協と公社が「ちゃんと分かれている」というところが調布市のいいところ」と述べられたように、社協で拾えなかったことが公社で、公社で拾えなかったことが社協でというように、お互いに支え合える関係として、また市民にとってもそれぞれ窓口があり選択できることの必要性も示唆された。他の関係機関においても同様であるといえよう。

2) 違う切り口からの支援

地域住民が互いに支えあう形として、公社の生活支援コーディネート事業「ちよこっとさん」、社協の「ご近所支えあい隊」という活動から、公社だからできること、社協だからできることをそれぞれの特性を活かし、同じ目的でも「個別支援」と「地域支援」という違う切り口から支援していく必要性が示された。在宅生活を維持することができるよう、地域で支えあう活動として切り口を変えて可能にし、お互いに尊重し、活動を理解していく必要がある。

3) お互いの存在を認識する

調布市では、ともに公益性の高い事業

として市から補助金を得て運営している2つの団体、社協と公社がある。その役割を明確にするとともにそれぞれが連携する必要性、働きかけが重要であるといえよう。今回のグループインタビューでは、社協からの視点で公社に対する認識の変化が見られ、近い存在でありながら、公社と一緒に協働していく視点では捉えていなかったが、改めて公社の存在を認識し、意識化することで協働できる可能性があることが示された。しかし、公社からみた社協の活動評価については行っていないため、研究成果を地域福祉の実践に活用するという点については不十分であるといえる。今回は、公社の活動評価としての位置づけにおいて論じ、地域支援のあり方について示唆するとともに、今後の両者の役割分担について研究課題といえる。

E. 結論

同じ地域福祉を担う公的機関として、社協は、公社の活動を評価すると共に信頼できるパートナーと位置づけていた。

公社独自のサービスへの評価としては、住民による家事援助サービスや配食サービスを通して、公的支援ではできない身近な支援を行っており、さらに必要があれば専門の相談員が公的支援に結びつけてきたこと、また、家族も含めて支援を行ってきたことに対し、介護保険の隙間を埋めるサービスと、高く評価していた。

また、ボランティアセンターで対応する地域支援においても、ボランティアと公社の家事援助を組み合わせることで、継続的な支援が実際に可能になった例が話され、頼りになる地域支援のパートナーであるこ

とが確認された。

さらに、ボランティア育成は、共通の活動であるが、無償のボランティアを育成している社協としては、有償活動を展開している公社のボランティアには、専門性を期待していることが話された。

今後は、モデル地域を定めて、個別支援と地域支援、有償のボランティアと無償のボランティアといったお互いの切り口の違いを生かしながら、協働して地域づくりをおこなってみたい、という展望も語られた。

F. 参考文献

- 1) 厚生労働省 (2008) 「これからの地域福祉のあり方に関する研究会報告書」
- 2) 加川充浩 (2010) 「地域包括ケアの推進方法とその構造—困難事例解決と社協活動の取り組みを通じて—」 島根大学社会福祉論集第3号
- 3) 中島民恵子・田嶋香苗・金圓景・奥田佑子・冷水豊・平野隆之 (2011) 「地域特性に即したインフォーマルケアの実践課題抽出の試み (1) —高齢化が進む大都市近郊の春日井市 S 地区での調査から—」 日本福祉大学社会福祉学部「日本福祉大学社会福祉論集」第125号
- 4) 木原孝久・住民流福祉総合研究所 (2011) 「住民流助け合い起こし」 筒井書房
- 5) 社会福祉法人東京都社協・地域包括ケア促進モデル事業検討委員会 (2009) 「連携が生み出す地域包括ケア～区市町村社協と地域包括支援センターの連携を目指して～」 社会福祉法人東京都社協
- 6) 社会福祉法人東京都社協・センター部会 「地域包括支援センター等が行うネットワークづくりのためのヒント集」 社会福

社法人東京都社協

- 7) 安梅勅江 (2001) ヒューマン・サービスにおけるグループインタビュー法 科学的根拠に基づく質的研究法の展開
- 8) 安梅勅江 (2003) ヒューマン・サービスにおけるグループインタビュー法Ⅱ／活用事例編 科学的根拠に基づく質的研究法の展開

G. 研究発表

1. 論文発表 今後検討していきたい。
2. 学会発表 今後検討していきたい。

H. 知的所有権の取得状況

なし

Ⅲ 資料編

住民向けアンケート（高齢者版）
（食生活と食事サービスに関する調査）

住民向けアンケート（女性版）
（食生活と食事サービスに関する調査）

保健福祉相談専門職アンケート
（地域包括支援センター職員からみた配食サービスの評価と活用）

保健福祉相談専門職アンケート
（ケアマネージャーからみた配食サービスの評価と活用）

食生活と食事サービスに関する調査

調布ゆうあい福祉公社
桜美林大学

このアンケートには、宛名のご本人がお答えください。宛名のご本人がアンケートにご記入できない場合は、他の方に代筆をお願いします。宛名のご本人が回答できない場合には、わかる範囲でかまいませんので、他の方がお答えください。

アンケートは、2月24日(金)までにご返送ください。

以下の問いについて、あてまはる番号に○をつけてください。

◎日ごろの生活について◎

問1 全般的に、ご自分の生活にどれくらい満足していますか。(○は1つ)

- | | |
|--------------|---------------|
| 1 非常に満足している | 5 まったく満足していない |
| 2 まあまあ満足している | 4 あまり満足していない |
| 3 どちらともいえない | |

問2 あなたは、孤立していると感じることがどのくらいありますか。(○は1つ)

- | | | |
|----------|----------|----------------|
| 1 ほとんどない | 2 ときどきある | 3 そう感じているときが多い |
|----------|----------|----------------|

問3 現在、あなたは町内会・自治会、ボランティア・市民活動団体、趣味や学習の会、高齢者クラブなどのグループや団体の会合や集まりに参加していますか。(○は1つ)

- | | |
|-------------|---------------|
| 1 1週間に2回以上 | 4 1ヶ月に1回くらい |
| 2 1週間に1回くらい | 5 1ヶ月に1回より少ない |
| 3 1ヶ月に2、3回 | 6 まったくない |

問4 同居家族以外の別居のお子さんやご親戚についておたずねします。合計して何回くらい、一緒に出かけたり、お互いの家を訪ねたり、電話で話しますか。(○は1つ)

- | | |
|-------------|---------------|
| 1 1週間に2回以上 | 4 1ヶ月に1回くらい |
| 2 1週間に1回くらい | 5 1ヶ月に1回より少ない |
| 3 1ヶ月に2、3回 | 6 まったくない |

問5 友達やご近所の人たちとは、何回くらい一緒に出かけたり、お互いの家を訪ねたり、電話をしますか。(○は1つ)

- | | |
|-------------|---------------|
| 1 1週間に2回以上 | 4 1ヶ月に1回くらい |
| 2 1週間に1回くらい | 5 1ヶ月に1回より少ない |
| 3 1ヶ月に2、3回 | 6 まったくない |

問6 あなたはご自宅で、日中のほとんどの時間、お一人になることがありますか。(○は1つ)

- | | |
|---------------|------------------|
| 1 ほとんど毎日一人 | 4 月に1～2日くらい一人 |
| 2 週に3～5日くらい一人 | 5 ほとんど一人になることはない |
| 3 週に1～2日くらい一人 | |

2 ページ目へ
お進みください

問7 あなたは福祉や環境を改善することなどを目的としたボランティア活動を行っていますか。
あてはまる番号すべてに○をしてください。

- | | |
|---------------------|-------------------------|
| 1 公園や通りなどの清掃等の美化活動 | 7 高齢者や障害者の話し相手や身の回りの世話 |
| 2 地域行事・まちづくり活動 | 8 高齢者や障害者の食事サービス(作る・配達) |
| 3 環境保全・自然保護活動 | 9 医療機関や福祉施設等での手伝い・支援活動 |
| 4 交通安全や防犯・防災に関する活動 | 10 その他() |
| 5 青少年の健全育成に関する活動 | 11 以前参加したことはあるが、今はしていない |
| 6 趣味やスポーツ、学習活動などの指導 | 12 まったく参加したことがない |

◎あなたの健康状態について◎

問8 全般的に、あなたの現在の健康状態はいかがですか。(○は1つ)

- 1 よい 2 まあよい 3 ふつう 4 あまりよくない 5 よくない

問9 あなたの日常生活についておたずねします。次のことを他の人の手助けなしに行うことはできますか。普段していなくても、必要があればできるか否かでお答えください。
(1)から(7)のすべての項目についてお答えください。(○は1つ)

(1) 食事をする(○は1つ)

- | | | | |
|------------|-----------|----------|------------|
| 1 | 2 | 3 | 4 |
| 一人で支障なくできる | 何とか一人でできる | 一部手助けが必要 | 全面的に手助けが必要 |

(2) 着替えをする(○は1つ)

- | | | | |
|------------|-----------|----------|------------|
| 1 | 2 | 3 | 4 |
| 一人で支障なくできる | 何とか一人でできる | 一部手助けが必要 | 全面的に手助けが必要 |

(3) 入浴をする(○は1つ)

- | | | | |
|------------|-----------|----------|------------|
| 1 | 2 | 3 | 4 |
| 一人で支障なくできる | 何とか一人でできる | 一部手助けが必要 | 全面的に手助けが必要 |

(4) 排泄をする(○は1つ)

- | | | | |
|------------|-----------|----------|------------|
| 1 | 2 | 3 | 4 |
| 一人で支障なくできる | 何とか一人でできる | 一部手助けが必要 | 全面的に手助けが必要 |

(5) 歩行する(○は1つ)

- | | | | |
|------------|-----------|----------|------------|
| 1 | 2 | 3 | 4 |
| 一人で支障なくできる | 何とか一人でできる | 一部手助けが必要 | 全面的に手助けが必要 |

(6) 買い物をする(○は1つ)

- | | | | |
|------------|-----------|----------|------------|
| 1 | 2 | 3 | 4 |
| 一人で支障なくできる | 何とか一人でできる | 一部手助けが必要 | 全面的に手助けが必要 |

(7) 食事を作る(○は1つ)

- | | | | |
|------------|-----------|----------|------------|
| 1 | 2 | 3 | 4 |
| 一人で支障なくできる | 何とか一人でできる | 一部手助けが必要 | 全面的に手助けが必要 |

3 ページ目へ
お進みください

問 10 あなたの健康についての考えをお伺いします。(1)～(6)の質問についてお答えください。
(○は1つ)

(1) 健康に影響する主なものは、自分の行いである。(○は1つ)

- | | | | |
|---------------|--------------|-----------------|------------------|
| 1 非常に
そう思う | 2 まあ
そう思う | 3 あまり
そう思わない | 4 まったく
そう思わない |
|---------------|--------------|-----------------|------------------|

(2) 健康でいられるのは、運が良いからだ。(○は1つ)

- | | | | |
|---------------|--------------|-----------------|------------------|
| 1 非常に
そう思う | 2 まあ
そう思う | 3 あまり
そう思わない | 4 まったく
そう思わない |
|---------------|--------------|-----------------|------------------|

(3) 健康によい行動をしていれば、自分の健康を維持することができる。(○は1つ)

- | | | | |
|---------------|--------------|-----------------|------------------|
| 1 非常に
そう思う | 2 まあ
そう思う | 3 あまり
そう思わない | 4 まったく
そう思わない |
|---------------|--------------|-----------------|------------------|

(4) 自分が何をしようとも、病気になることを防ぐことはできない。(○は1つ)

- | | | | |
|---------------|--------------|-----------------|------------------|
| 1 非常に
そう思う | 2 まあ
そう思う | 3 あまり
そう思わない | 4 まったく
そう思わない |
|---------------|--------------|-----------------|------------------|

(5) 自分を大事にしていれば、病気を回避できる。(○は1つ)

- | | | | |
|---------------|--------------|-----------------|------------------|
| 1 非常に
そう思う | 2 まあ
そう思う | 3 あまり
そう思わない | 4 まったく
そう思わない |
|---------------|--------------|-----------------|------------------|

(6) 健康でいられるか否かは運命で決められている。(○は1つ)

- | | | | |
|---------------|--------------|-----------------|------------------|
| 1 非常に
そう思う | 2 まあ
そう思う | 3 あまり
そう思わない | 4 まったく
そう思わない |
|---------------|--------------|-----------------|------------------|

◎食生活や食事の準備について◎

問 11 食事の材料の買い物は、主にどなたがしていますか。(○は1つ)

- | | |
|-----------|----------------------|
| 1 自分自身 | 5 材料の宅配サービスを利用 |
| 2 家族や親族 | 6 その他() |
| 3 近隣の人や友人 | 7 ほとんど食材は買わない／ほとんど外食 |
| 4 ホームヘルパー | |

問 12 ご家庭では、切ったり焼いたり、炊いたりする調理は、主としてどなたがしていますか。

(○は1つ)

- | | |
|-----------|---------------------|
| 1 自分自身 | 4 ホームヘルパー |
| 2 家族や親族 | 5 その他() |
| 3 近隣の人や友人 | 6 ほとんど調理をしない／ほとんど外食 |

問 13 あなたご自身で切ったり焼いたり、炊いたりして調理をされるのはどれくらいの頻度ですか。
買った物をあたためるだけ、お湯を注ぐだけ等は除きます。(○は1つ)

- | | |
|------------------|-----------------|
| 1 ほぼ毎食調理している | 4 週に1回程度は調理している |
| 2 1日のうち1食は調理している | 5 週に1回より少ない |
| 3 週に数回調理している | 6 ほとんどしない |

4 ページ目へ
お進みください

問 14 食生活についての周囲の人からの援助についてお伺いします。(1)～(4)の質問についてお答えください。(○は1つ)

(1) あなたがご自分で食事の用意ができない場合、あなたの家族や友人など身近な人は食材を買ったり、食事の用意をしてくれると思いますか。(○は1つ)

- 1 そう思う 2 まあ そう思う 3 あまり そう思わない 4 まったく そう思わない 5 このような人は いない

(2) あなたがバランスのとれた食事をしていない場合、あなたの家族や友人など身近な人はバランスのとれた食事をするように促してくれると思いますか。(○は1つ)

- 1 そう思う 2 まあ そう思う 3 あまり そう思わない 4 まったく そう思わない 5 このような人は いない

(3) あなたが塩分の多い食べ物をとった場合、あなたの家族や友人など身近な人は注意してくれると思いますか。(○は1つ)

- 1 そう思う 2 まあ そう思う 3 あまり そう思わない 4 まったく そう思わない 5 このような人は いない

(4) あなたが食生活の改善をしなければならない場合、あなたの家族や友人など身近な人は、相談にのってくれると思いますか。(○は1つ)

- 1 そう思う 2 まあ そう思う 3 あまり そう思わない 4 まったく そう思わない 5 このような人は いない

問 15 あなたの食生活について、(1)～(8)の質問について「1 はい」「2 いいえ」でお答えください。

	はい	いいえ
(1) 現在、病気にかかり、食べ物の内容や量を変えている	1	2
(2) 1日の食事の回数は、1回以下である	1	2
(3) 飲酒量は、毎日、ビールで換算すると1本ないしコップ3杯以上、日本酒で換算すると1合以上、ウイスキーで換算するとシングル2杯以上を飲んでいる	1	2
(4) 歯や口が原因で、食べにくいことがある	1	2
(5) 経済的に、必要な食べ物をいつも十分買うことができない	1	2
(6) 1日に、医者から指示された薬と薬局で購入した薬(市販薬)を併せて3種類以上服用している。	1	2
(7) この6ヶ月で、体重が4.5キロ以上減ったり増えたりした(ダイエットなど自分で望んで行った場合は「いいえ」とする)	1	2

5 ページ目へ
お進みください

問 16 (1)～(10)の食品類を食べていますか。食品群ごとに、「1 ほとんど毎日食べている」「2 毎日食べていない」のいずれかに○をしてください。

	ほとんど毎日 食べている	毎日 食べていない
(1) 肉類	1	2
(2) 魚介類	1	2
(3) 海藻類	1	2
(4) 緑黄色野菜	1	2
(5) 牛乳(コップ1杯:180cc)程度	1	2
(6) 大豆・大豆製品	1	2
(7) いも類	1	2
(8) 油脂類(油やバター、マーガリンなど)	1	2
(9) 果物	1	2
(10) 卵1個程度	1	2

問 17 あなたの家族や親族など身近な人の食生活についてお伺いします。

(1)～(3)の質問についてお答えください。

(1) あなたの家族や親族など身近な人は、野菜および果物を毎日食べていますか。

(○は1つ)

1 ほとんど毎日 2 ときどき 3 あまり 4 まったく 5 知らない
食べている 食べている 食べていない 食べていない

(2) あなたの家族や親族など身近な人は、牛乳・乳製品および豆類を毎日とっていますか。

(○は1つ)

1 ほとんど毎日 2 ときどき 3 あまり 4 まったく 5 知らない
食べている 食べている 食べていない 食べていない

(3) あなたの家族や親族など身近な人は、肉類および魚介類を毎日食べていますか。

(○は1つ)

1 ほとんど毎日 2 ときどき 3 あまり 4 まったく 5 知らない
食べている 食べている 食べていない 食べていない

問 18 食生活についてのあなたのお考えについてお伺いします。

(1)～(7)の質問についてお答えください。

(1) 野菜および果物を毎日かさず食べることは、ご自分の健康維持に役立つと思いますか。

(○は1つ)

1 非常に 2 まあ 3 あまり 4 まったく
そう思う そう思う そう思わない そう思わない

(2) 牛乳・乳製品および豆類を毎日かさずとることは、ご自分の健康維持に役立つと思いますか。(○は1つ)

1 非常に 2 まあ 3 あまり 4 まったく
そう思う そう思う そう思わない そう思わない

6 ページ目へ
お進みください

(3) 肉類および魚介類を毎日かかさず食べることは、ご自分の健康維持に役立つに役立つと思いますか。(○は1つ)

- 1 非常に
そう思う 2 まあ
そう思う 3 あまり
そう思わない 4 まったく
そう思わない

(4) あなたは、これからの数週間、あまり食欲がなくても野菜および果物を毎日かかさず食べる自信がありますか。(○は1つ)

- 1 大いに
自信がある 2 まあ
自信がある 3 あまり
自信がない 4 まったく
自信がない

(5) あなたは、これからの数週間、あまり食欲がなくても牛乳・乳製品および豆類を毎日かかさずとる自信がありますか。(○は1つ)

- 1 大いに
自信がある 2 まあ
自信がある 3 あまり
自信がない 4 まったく
自信がない

(6) あなたは、これからの数週間、あまり食欲がなくても肉類および魚介類を毎日かかさず食べる自信がありますか。(○は1つ)

- 1 大いに
自信がある 2 まあ
自信がある 3 あまり
自信がない 4 まったく
自信がない

(7) あなたは、これからの1か月間、果物、野菜、牛乳・乳製品、豆類、肉類および魚介類など多様な食品を毎日かかさず食べるつもりがありますか。(○は1つ)

- 1 大いに
ある 2 まあ
ある 3 あまり
ない 4 まったく
ない

問 19 栄養の改善を図るためのプログラムには次のようなものがあります。
あなたは、次のどれに参加したいですか。あてはまる番号すべてに○をしてください。

- 1 日頃の食事内容について、栄養士による相談
- 2 高齢者のための料理教室
- 3 友達や知人とともにおこなう会食会
- 4 小学校や地域福祉センター等で行われている地域の会食会
- 5 どれにも参加したくない／参加できない
- 6 栄養面で問題がなく、参加の必要がない

7 ページ目へ
お進みください

◎各種サービスの利用について◎

問 20 あなたは、介護保険の認定を申請していますか。(○は1つ)

- | | |
|-------------------|---------------|
| 1 申請の必要がない | 3 申請中 |
| 2 申請を考えているが、していない | 4 介護保険の認定者である |

問 21 あなたは次の公的福祉サービスを利用していますか。(あてまはるすべてに○)

- | | |
|----------|----------------|
| 1 配食サービス | 5 友愛訪問 |
| 2 ふれあい給食 | 6 ほのぼの電話訪問 |
| 3 軽度生活援助 | 7 その他() |
| 4 高齢者会食 | 8 サービスを利用していない |

問 22 では、現在利用していないが、利用したいと考えている公的な福祉サービスはありますか。(あてまはるすべてに○)

- | | |
|----------|----------------------|
| 1 配食サービス | 5 友愛訪問 |
| 2 ふれあい給食 | 6 ほのぼの電話訪問 |
| 3 軽度生活援助 | 7 その他() |
| 4 高齢者会食 | 8 サービスを利用しようとは考えていない |

◎問 21、問 22 のサービスの概要◎

- 配食サービス……………65歳以上のひとりぐらし・高齢者世帯で、心身の状態から買物や炊事が困難な方が対象。昼食・夕食を自宅に届ける。
- 高齢者会食……………おおむね70歳以上で、ひとりぐらしや日中独居の方が対象。週1回、地域福祉センターでボランティアが調理した食事を会食する。
- ふれあい給食……………70歳以上で、ひとりぐらし・高齢者世帯・日中独居の方が対象。小学校内のふれあい給食室等で、学校給食の会食や健康体操・書道・絵手紙等の趣味活動、児童や地域の方との交流等を行う。
- 友愛訪問……………65歳以上のひとりぐらしや日中独居の方が対象。週1回1時間程度、友愛訪問員がお話し相手として訪問する。
- 軽度生活援助……………65歳以上のひとりぐらし・高齢者世帯等で日常生活上の援助が必要な方が対象。掃除、洗濯等家事サービス、買物を行う。
- ほのぼの電話訪問…おおむね70歳以上のひとりぐらしの方が対象。週1回、電話でお話し相手をする。

8 ページ目へ
お進みください

◎調布ゆうあい福祉公社に関する知識について◎

問 23 調布ゆうあい福祉公社の名前は、ご存知でしたか。(○は1つ)

- 1 知っていた 2 知らなかった → 問 24 へ

副問 以下は調布ゆうあい福祉公社の実際の活動です。(1)～(7)の項目について「1 知っていた」「2 知らなかった」でお答えください。

	知っていた	知らなかった
(1) 基本理念は、「市民相互の助け合い」と「住み慣れた地域で住みつづけられるようサポートする」ことである	1	2
(2) 有償(有料)福祉サービスを利用できるのは、市内に住む65歳以上の方、心身に障害のある方、ひとり親家庭や病弱な方及び産前産後の人である	1	2
(3) 利用会員として登録した人は、ソーシャルワーカーや看護師に訪問や電話で、日常生活の悩みや健康上の悩みについて相談することができる	1	2
(4) 利用会員として登録した人は、家事援助と、食事サービス(昼のみ、夕のみ、昼と夕両方のどれか)を有料で利用することができる	1	2
(5) 食事サービスの弁当を作ったり、配達しているのは、ボランティアの人たちである	1	2
(6) 食事サービスのお弁当は、栄養士がカロリー計算をし、国産で新鮮な材料を出来る限り使用している	1	2
(7) 食事サービスでは、お弁当を届ける際に利用者の安否を確認している	1	2

【全員の方に】

◎調布ゆうあい福祉公社のサービスの利用と活動への参加について◎

問 24 現在、調布ゆうあい福祉公社では、食事の用意が困難な家庭に対して、月 1000 円の会費に加え、食事サービスを1食 750 円で提供しています。ご家庭で食事の用意ができない状態になった場合、このサービスをあなたは利用してみたいと思いますか。(○は1つ)

- 1 利用したい 2 利用したくない

付問1 何回くらい利用したいですか。(○は1つ)

- 1 毎日、昼食と夕食の2食
- 2 毎日、昼食か夕食のいずれか1食
- 3 2日に1回
- 4 1週間に1回
- 5 それ未満
- 6 わからない

付問2 なぜ利用したくないのですか。あてはまる番号すべてに○をしてください。

- 1 価格が高い
- 2 受け取りのために行動が制限される
- 3 ヘルパーに頼む
- 4 家族が反対する
- 5 人と会うのがすきでない
- 6 食事サービスのことがよくわからない
- 7 その他()

9 ページ目へお進みください

【全員の方に】

問 25 調布ゆうあい福祉公社では、食事サービスを提供するために、協力会員が(ボランティアとして)お弁当を作ったり、お弁当を配達したりしています。いくらか謝礼がでます。あなたは、この有償のボランティアに参加したいと思いますか。あてはまる番号すべてに○をしてください。

- 1 お弁当を作ることに参加したい 3 参加する意向はない
2 お弁当を配ることに参加したい 4 わからない

問 26 調布ゆうあい福祉公社では、研修を受けたボランティアが、高齢者や障害者、子育て中の方に、掃除・買い物・食事の支度・洗濯・薬とりなど、自立した生活をおくるために必要な生活行動を援助・補助・代行するサービスを行っています。いくらかの謝礼がでます。あなたは、この有償のボランティアに参加したいと思いますか。(○は1つ)

- 1 参加したい 2 参加する意向はない 3 わからない

問 27 調布ゆうあい福祉公社では、一人暮らし等の高齢者世帯の方に、30分以内のちょっとした作業(電球の取り換えや物の上げ下ろし等)をお手伝いしています。謝礼はありません。あなたは、この無償のボランティアに参加したいと思いますか。(○は1つ)

- 1 参加したい 2 参加する意向はない 3 わからない

問 28 調布ゆうあい福祉公社は、ボランティアの育成や介護保険外のサービスの提供を行っています。その運営のために市が補助を出しています。市が補助を出すことについて、あなたはどのようにお考えですか。(○は1つ)

- 1 公社の活動には、公共性があるため、市が補助金を出すべきである
2 公社の活動には、公共性があるとはいえ、できるだけ独立採算で行うべきである
3 公社の活動には、公共性はあまりないため、独立採算で行うべきである
4 わからない

◎ご家族やご本人のことについて◎

問 29 現在のあなたの満年齢について教えてください。

満

--	--

 歳

問 30 あなたの性別は何ですか。 1 男性 2 女性

問 31 あなたは現在、収入のある仕事(パートも含む)をしていますか。(○は1つ)

- 1 働いている(勤め・自営・パートを問いません)
2 休職中である
3 働いていない(学生・専業主婦・求職中を含みます) → 問 33 へ

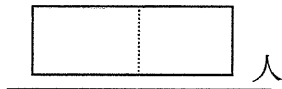
問 32 【問 31 で1あるいは2と回答した方】あなたのご職業は何ですか。複数の職業をお持ちの場合には、主な職業についてお答えください。(○は1つ)

- 1 常時雇用されている正規職員・社員 5 臨時雇用・パート・アルバイト
2 経営者・役員 6 自営業主・自由業者
3 契約社員・嘱託 7 家族従業者
4 派遣社員 8 内職

10 ページ目へ
お進みください

【全員の方に】

問 33 現在、同居している(同じ敷地内に住んでいる)人は、あなたを含めて合計何人ですか。入院されている方も含めてお答えください。一人暮らしの方は「1」と記入し、問 34 にお進みください。



副問 あなたと同居している方は、どなたですか。あてはまる方をすべてお答えください。

- | | | |
|-------------|---------|---------------|
| 1 配偶者 | 6 あなたの父 | 11 兄弟姉妹 |
| 2 息子 | 7 あなたの母 | (配偶者の兄弟姉妹も含む) |
| 3 娘 | 8 配偶者の父 | 12 その他() |
| 4 息子の配偶者(嫁) | 9 配偶者の母 | |
| 5 娘の配偶者(婿) | 10 孫 | |

【全員の方に】

問 34 平成 22 年中のあなたの家族全体の収入は税込みでいくらでしたか。他のご家族の方の収入も含めてお答えください。株式配当、臨時収入、副収入などすべての収入を含んだものでお答えください。おおよそのところがかまいません。(○は1つ)

- | | |
|----------------|---------------------|
| 1 100 万円未満 | 7 400～500 万円未満 |
| 2 100～125 万円未満 | 8 500～750 万円未満 |
| 3 125～150 万円未満 | 9 750～1,000 万円未満 |
| 4 150～200 万円未満 | 10 1,000～1,500 万円未満 |
| 5 200～300 万円未満 | 11 1,500 万円以上 |
| 6 300～400 万円未満 | |

問 35 あなたの現在のお住まいは、次のどれにあたりますか。(○は1つ)

- | | |
|----------------------------|--------------------|
| 1 持ち家(一戸建て) | 5 都営・市営住宅 |
| 2 持ち家(マンション・公社・公団の分譲住宅) | 6 都営の高齢者住宅(シルバーピア) |
| 3 民間賃貸マンション(公社・公団の賃貸住宅を含む) | 7 有料老人ホーム |
| 4 民間賃貸アパート(木造など) | 8 その他() |

問 36 あなたは調布市にお住まいになって、何年になりますか。(○は1つ)

- | | | |
|----------|-------------|----------|
| 1 1年未満 | 4 5～10 年未満 | 7 30 年以上 |
| 2 1～3年未満 | 5 10～20 年未満 | |
| 3 3～5年未満 | 6 20～30 年未満 | |

問 37 あなたが最後に卒業された学校は次のどちらですか。(○は1つ)

- | | |
|-----------|-------------|
| 1 中学校 | 4 短大・高専 |
| 2 高等学校 | 5 4年制大学・大学院 |
| 3 専門・専修学校 | 6 その他() |

問 38 このアンケートにご記入いただいた方はどなたでしょうか。(○は1つ)

- 1 宛名のご本人が記入した
- 2 宛名の方から回答を聞いて、別の人が代筆した
- 3 宛名の方が回答できないので、別の人が回答した

11 ページ目へ
お進みください

最後に、福祉や医療についてのご意見・ご要望がありましたら、どのようなことでも結構ですので、下欄にご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。同封の封筒にて、ご返送をお願いします。